

All to brighten the world

**FURUKAWA**  
ELECTRIC

# 事業説明会

エネルギーインフラ領域

2026年6月4日

エネルギーインフラ領域長  
西村 英一

本資料は、株主、投資家、ならびに報道関係者の皆様に当社の活動内容に関する情報を提供することを目的として作成しています。

#### 将来情報についての注意事項

この資料に記載されております売上高及び利益等の計画のうち、過去または現在の実事に関するもの以外は、当社グループの各事業に関する業界の動向についての見通しを含む経済状況、ならびに為替レートの変動その他の業績に影響を与える要因について、現時点で入手可能な情報をもとにした当社グループの仮定及び判断に基づく見通しを前提としております。

これら将来予想に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しており、例として以下のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。

- ・ 米国、欧州、日本その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費及び企業による設備投資の動向
- ・ 米ドル、ユーロ、アジア諸国の各通貨の為替相場の変動
- ・ 急速な技術革新と当社グループの対応能力
- ・ 財務的、経営的、環境的な諸前提の変動
- ・ 諸外国による現在及び将来の貿易規制等
- ・ 当社グループが所有する有価証券等の時価の変動

従いまして、実際の売上高及び利益等と、この資料に記載されております計画とは大きく異なる場合があることをご承知おき下さい。なお、当社グループは、この資料の本リリース後においても、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。

#### 著作権等について

この資料のいかなる部分についてもその著作権その他一切の権利は、古河電気工業株式会社に帰属しており、あらゆる方法を問わず、無断で複製または転用することを禁止します。

# 目次

## 【 1. エネルギーインフラ領域全体 】

- 1-1. 25中計振り返り 財務ハイライト
- 1-2. 25中計振り返り 成長戦略施策と資本効率改善
- 1-3. ビジョン2030 数値計画
- 1-4. ビジョン2030 概要
- 1-5. 26年度予想と取り組み
- 1-6. 26年度取り組み（研究開発・設備投資）

## 【 2. 電力事業 】

- 2-1. 25中計振り返り
- 2-2. ビジョン2030  
<重点施策>
- 2-3. 受注確保
- 2-4. 製造力強化/ 施工力増強
- 2-5. 技術開発

## 【 3. HVDC事業 】

- 3-1. 新工場投資について
- 3-2. 広域連系（国の方針状況・計画進捗）、海外展開

## 【 4. 古河電工メタルケーブル（FEMC） / 古河電工パワーシステムズ（FEPS） 】

- 4-1. 再エネ・データセンタ向け製品拡販
- 4-2. 高機能製品へのシフト

### Appendix

- 事業戦略
- 製品概要
- 売上高・営業利益推移

All to brighten the world

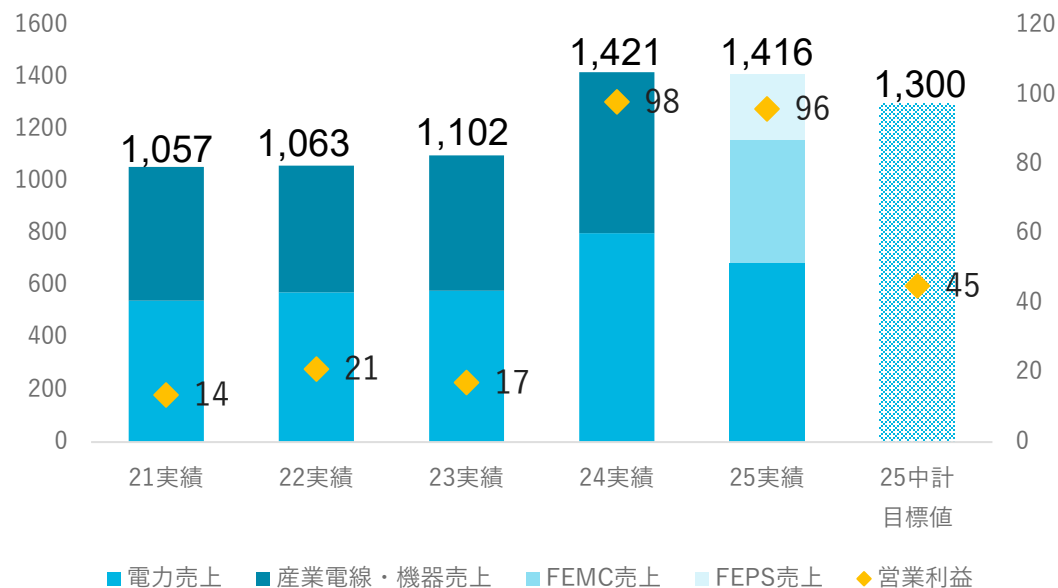
**FURUKAWA**  
ELECTRIC

# 1. エネルギーインフラ領域全体

# 1-1. 25中計振り返り 財務ハイライト

	22年度（実績）	23年度（実績）	24年度（実績）	25年度（実績）	25中計目標値 <small>(2022年5月26日公表)</small>
売上高	1,063億円	1,102億円	1,421億円	1,416億円	1,300億円
営業利益	21億円	17億円	98億円	96億円	45億円

売上・営利推移



## 25中計期間の振り返り

**25中計（策定時目標）を売上・営利ともに大幅に達成**

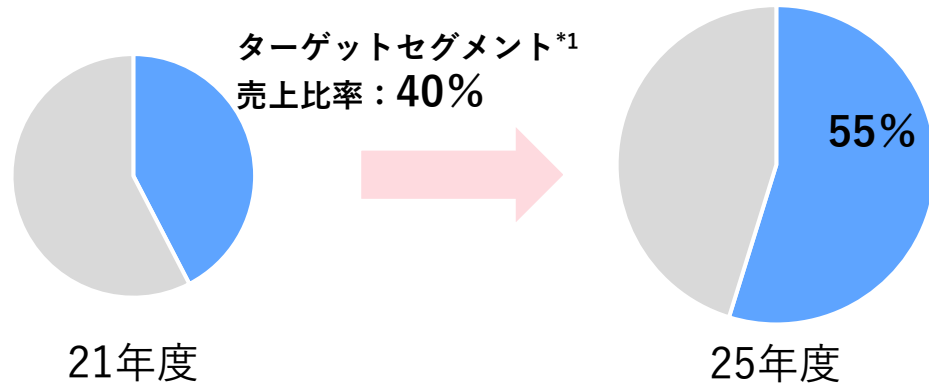
- ①電力事業：国内超高圧地中線の計画通りの遂行
- ②電力事業：再エネ案件の推進  
 ⇒25年度再エネ案件売上は  
 21年度比で約2倍
- ③FEMC・FEPS（旧産業電線・機器事業部門）  
 ：新市場への展開  
 （データセンタ向け・海外送配電部品等）

# 1-2. 25中計振り返り 成長戦略施策と資本効率改善

## 以下施策により利益率向上と資本効率の改善を達成

- ターゲットセグメント・注力製品の事業推進
- 事業統合や持分譲渡による事業ポートフォリオ改善

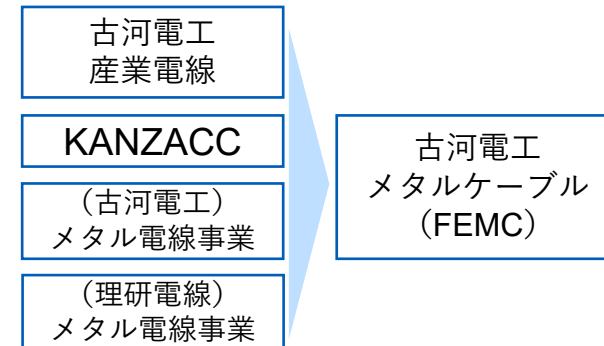
- ①電力事業：国内超高圧地中線・再エネ比率拡大/売上伸長
- 千葉電力工場（市原）の大型設備投資を計画通り完了（18～25年 累計150億円の設備投資）



- ②電力事業：瀋陽古河の持分譲渡
- 26年2月に譲渡完了
  - ⇒運転資本圧縮による財務体質改善

- ③HVDC\*2事業部門：
- 25年10月に約1,000億円の新工場への設備投資決定
  - 25年12月に事業部門新設

- ④FEMC
- メタル事業
  - ⇒グループ内のメタル電線事業統合を25年10月に完了



- ⑤FEPS
- 防災部品事業
  - ⇒26年4月に防災部品事業を(株)古河テクノマテリアルより承継

\*1 ターゲットセグメント：国内超高圧地中線・再エネ（海底線+地中線）

\*2 HVDC (High Voltage Direct Current)：高電圧直流送電

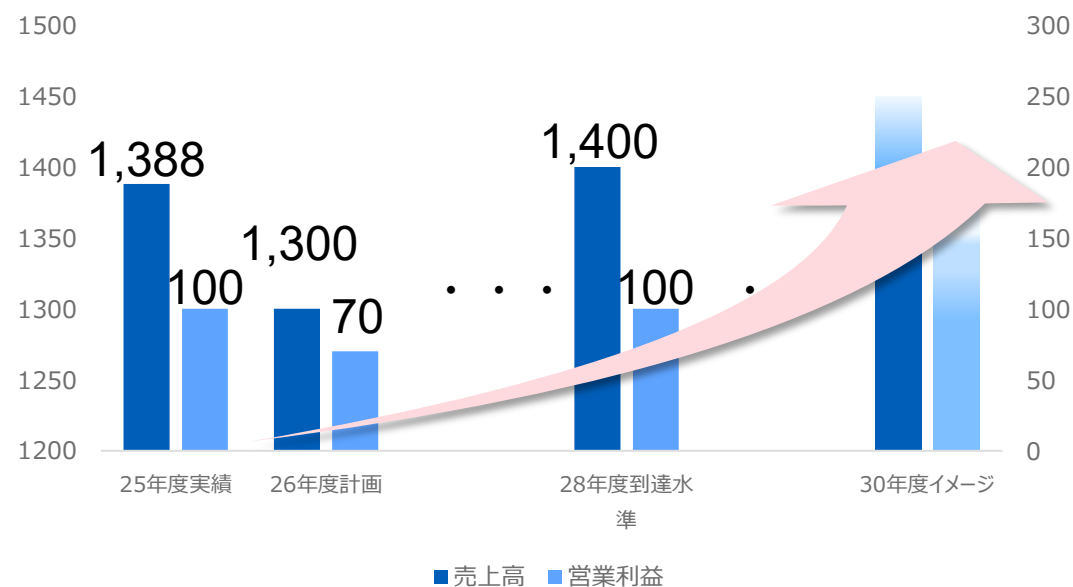
# 1-3. ビジョン2030 数値計画

2050年カーボンニュートラル実現 ⇔ 豊富な経験と技術力で、インフラ強靱化と資源循環型社会を実現

ありたい姿

**エネルギーインフラ：エネルギーを軸に存在感ある事業を確立する**  
 古河電工グループの柱の一つとして、継続的に成長し、  
 社会に貢献する事業を実現する

エネルギーインフラ領域 売上/営業利益計画 (億円)



- **ビジョン2030前半は25年度同水準の利益計画**  
 電力事業の超高圧地中線などが堅調に推移  
 FEMC・FEPSも機能線などを中心に拡大基調  
 計画達成に向け人財確保・設備投資・研究開発を推進
- **ビジョン2030後半での収益成長を見込む**  
 洋上風力一般海域向案件（電力事業）が本格化  
 FEMC・FEPSの新製品・新市場が拡大

\* 新セグメントに基づきFY25の実績値をリステイト

# 1-4. ビジョン2030 概要

世界規模で電力需要が拡大

⇒ 再生可能エネルギーとデータセンタをテーマに2030年に向けて事業を更に拡大

当社の強みである技術・製品を活用することで、  
事業機会を確実に取り込み、エネルギーインフラ領域の成長を実現

## <外部環境>

電力需要の増大

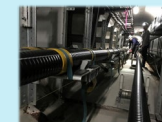
再生可能エネルギー  
の拡大

データセンタ市場  
の拡大

人手不足の深刻化

国内高圧地中線  
拡大需要の取り込み

高い品質信頼性と長年の実績に基づき  
インフラ基盤構築に貢献



国内超高圧地中線

洋上風力海底ケーブル  
システム拡大

国内洋上風力港湾案件の実績をベースに  
洋上風力一般海域案件の獲得



洋上風力  
海底ケーブルシステム

再エネ・データセンタ向け  
製品拡販

再エネ導入・データセンタ構築に  
施工性向上と省人化で貢献



らくらくアルミ  
ケーブル®



ケーブル付きプラグイン  
コネクタ (PIC)

高機能製品へのシフト

当社固有技術を活用した高機能製品で、  
新市場開拓・海外展開を実施



海洋ケーブル



海外向け  
送配電部品

## 1-5. 26年度予想と取り組み

## FY26\_通期予想

(単位：億円)

	FY25*	FY26 予想	前年比
	a	b	b-a
売上高	1,388	1,300	▲ 88
営業利益	100	70	▲ 30

\* 新セグメントに基づきFY25の実績値をリステイト

## ●26年度予想

大型案件が集中した25年度から減収・減益

外部環境：国内超高压地中線は堅調な需要

(26年度は案件端境期で一時的に落ち込み)

建販市場は機能線需要が回復

## ●26年度取り組み ～ビジョン2030実現に向けた基盤づくり～

## &lt;電力&gt;

- ・国内超高压地中線の堅調な需要と再エネ事業拡大への対応に向けた製造力、施工力の強化
- ・洋上風力一般海域案件の受注獲得

## &lt;HVDC&gt;

- ・2030年の新工場稼働に向けた設備投資

## &lt;FEMC・FEPS&gt;

- ・再エネ、データセンタ市場向けの新製品開発の促進
- ・新市場開拓、海外市場へのマーケティング活動強化

## &lt;全体&gt;

- ・DX推進：生産性向上・効率化の推進

# 1-6. 26年度取り組み（設備投資・研究開発）

## <設備投資>

240億円

## <研究開発>

23億円

### <設備投資概要>

#### ●電力

- ・千葉電力工場（市原）の生産性向上投資

\* 海底線製造設備の導入は25中計期間で完了

ビジョン2030期間においてはDX投資・設備更新に  
同水準の投資を継続し生産性向上を図る

#### ●HVDC

- ・2030年の新工場稼働に向けた建設、設備導入

#### ●FEMC・FEPS

- ・統合効果発現に向けたシステム投資
- ・高機能製品製造の設備投資



HVDC新工場投資

### <研究開発項目>

#### ●電力

- ・浮体式洋上風力向けケーブルシステム開発

#### ●HVDC

- ・超高压直流ケーブル開発

#### ●FEMC・FEPS

- ・次世代電線、機器の開発強化



浮体式洋上風力発電の  
実海域への設置状況

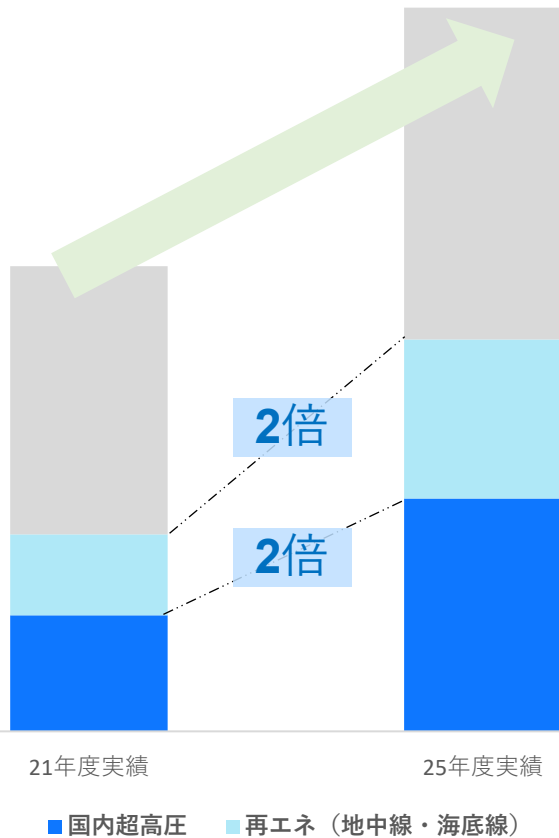
All to brighten the world

**FURUKAWA**  
ELECTRIC

## 2. 電力事業

# 2-1. 25中計振り返り

## 電力事業 売上推移



### ●ターゲットセグメントの売上拡大

- ・千葉電力工場（市原）の大型設備投資を計画通り完了（海底線用大型ターンテーブル等 18～25年 累計150億円の設備投資）
- ・国内超高压地中線：大型案件の計画通りの実施で売上増  
工事施工班増班で施工力増強
- ・再エネ（海底線+地中線）：21年度比2倍
- ・洋上風力港湾案件を中心に海底線案件を一括請負
- ・国内洋上風力発電事業として最高電圧となる66kVの実績を積上げ  
⇒培った技術力を基に一般海域案件の受注へ活かす

洋上風力海底線の実績	
23年度	入善洋上風力事業
23年度	石狩湾新港洋上風力発電事業
25年度	北九州響灘洋上ウインドファーム



石狩湾新港洋上風力発電事業 布設写真

### ●技術開発の推進

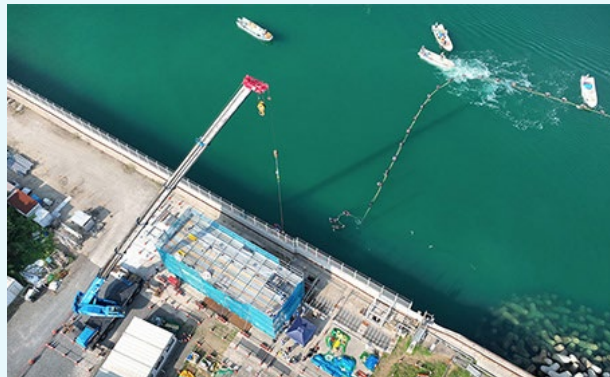
- ・浮体式洋上風力分野の要素技術開発完了  
30年度以降を見据え、ビジョン2030では実証フェーズへ

## 洋上風力発電向け海底ケーブルシステム

## ●北九州響灘洋上ウインドファーム向け海底ケーブル工事（総延長59km）を無事故・無災害で完工

- ・事業会社名 : ひびきウインドエナジー株式会社
- ・商業運転開始日 : 2026年3月2日
- ・設備容量 : 9.6MWx25基（設備容量220MW）
- ・電圧66kV海底ケーブルとしては石狩湾新港洋上風力発電所に続く2例目
- ・鉛被金属管を使用しない新構造ケーブルを採用
- ・FEMCと新規開発した両端端末付き66kV EPRケーブルの納入
- ・風車内の限られたスペースでの配線・接続および工期短縮への貢献

港湾案件で培った技術力を今後の一般海域案件に展開していく



北九州響灘洋上ウインドファーム 布設写真

## エネルギーを軸に存在感ある事業を確立する

ありたい姿

「2050年カーボンニュートラル」の実現に向け、データセンタの増加等に伴う電力需要の増大を背景とした電力基幹網の強靱化ニーズに対応するとともに、再生可能エネルギー分野における電力ケーブルシステム関連において、国内随一のプレゼンスを発揮する

## ターゲットセグメント

国内超高压地中線

国内再エネ(海底線+地中線)

## &lt;重点施策の推進&gt;

## ■受注確保

- 国内超高压地中線：拡大需要の取り込み
- 再エネ（海底線+地中線）：洋上風力案件受注

## ■製造力強化 / 施工力増強

- 生産性・施工性向上：DX活用
- 施工班増班：採用強化・教育体制拡充
- 協力会社連携拡大：トレーニング協力・施工電圧拡大
- 工期短縮：スキルレス製品開発・市場投入

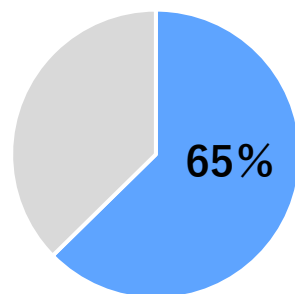
## ■技術開発推進

- 海底ケーブル：浮体式洋上風力実証事業参画
- 地中ケーブル：施工性に優れた製品開発
- 機器部品：次世代接続部の開発 / 工法統一

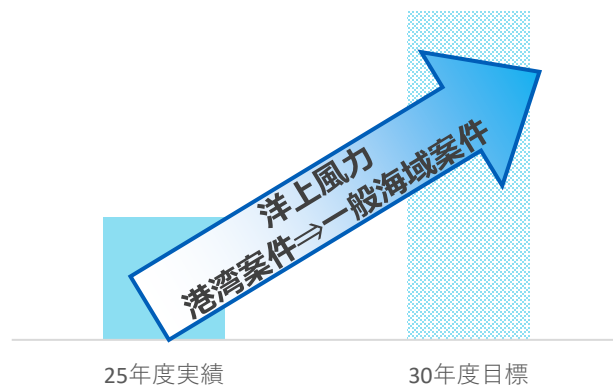


25年度実績

再エネ（海底線+地中線）売上



30年度目標



■ 25年度実績 ※ 30年度目標

# 2-3. <重点施策> 受注確保

国内超高圧地中線案件に加え、洋上風力一般海域案件を中心に再エネ案件（海底線+地中線）の需要を着実に取込む

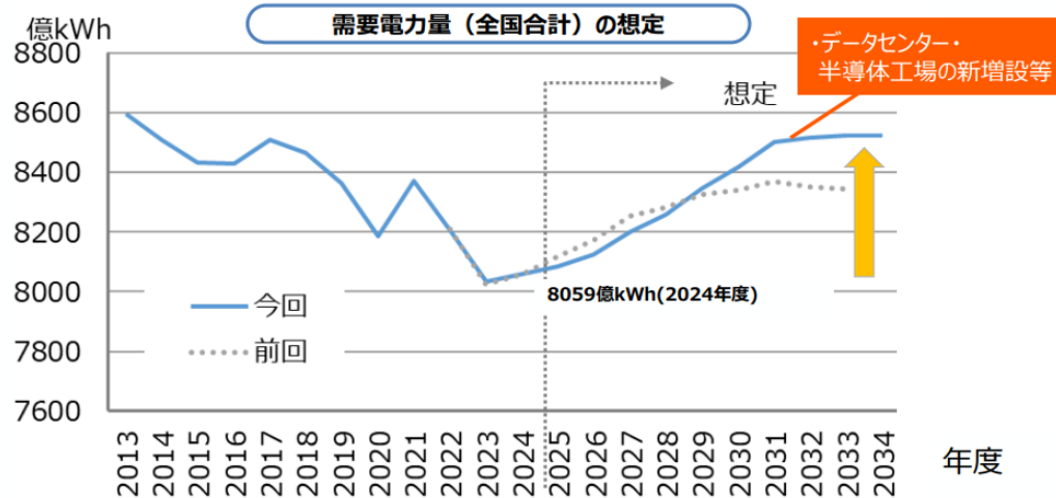
## 国内超高圧地中線

- OF/CVケーブルリプレイス  
老朽化設備の更新を背景に長期的に高水準の需要が継続
- データセンター・半導体工場の新設・増設の加速  
電力需要の増大による基幹網強化

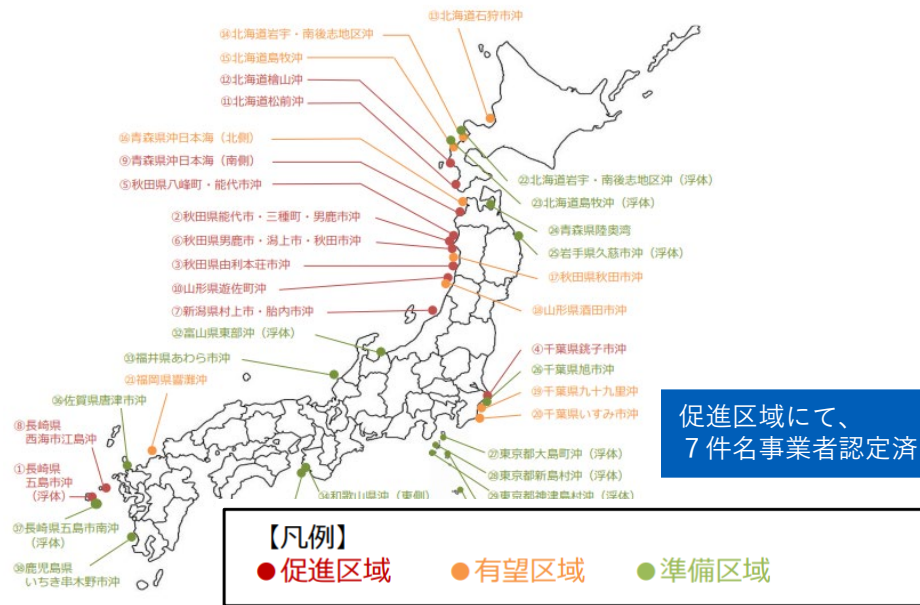
⇒ 中長期的な高水準の需要に応じて受注獲得継続

## 再エネ（海底線+地中線）

- 洋上風力一般海域案件  
事業者認定済み案件の受注に向けた取組みを継続
- 陸上風力案件等  
大型案件の着実な取り込み



\* 引用元：資源エネルギー庁 今後の電力需要の見通しについて（25/1月資料）



\* 引用元：再エネ海域利用法に基づく区域指定・事業者公募の流れ及び案件形成状況

## 2-4. <重点施策> 製造力強化/施工力増強

### <製造力強化>

DX投資・設備更新に同水準の投資を継続し生産性向上を図る

千葉電力工場（市原）の海底線製造設備の導入完了（18～25年度累計 150億円投資）

### <施工力増強>

人員増強と工法改善で25年度比で施工力30%アップ

#### 【直営班増強】

- ・ 処遇改善実施
- ・ 現場管理者の拡充（採用・育成）
- ・ 新卒採用強化継続/多様性を活かした採用（外国籍採用）
- ・ 教育体制・トレーニング設備の拡充

#### 【協力会社との提携拡大】

- ・ 協力会社への育成トレーニング
- ・ 取り扱い電圧範囲の拡大

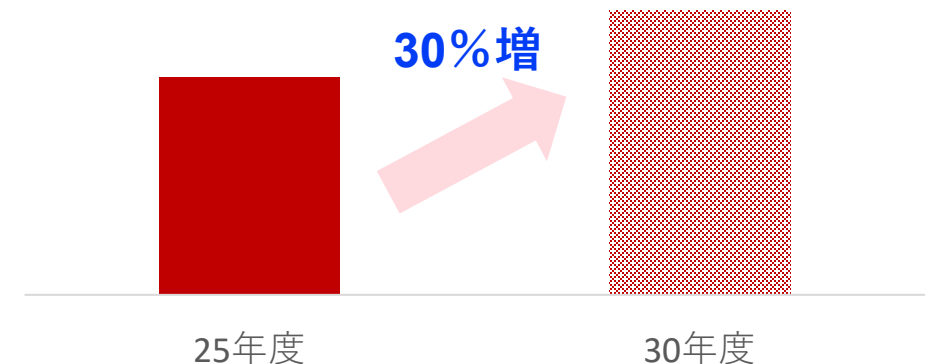
#### 【工期短縮（工法改善）】

- ・ 部品設計改良、機械化、スキルレス化
- ・ 施工現場でのDX推進



外国籍ジョインター研修・トレーニングの様子  
\* 本年4月インドネシア人6名を採用

施工班数推移



## 2-5. <重点施策> 技術開発

### <外部環境>

再生可能エネルギーの拡大

データセンタ増設による  
電力基幹網の強靱化

OF/CVリプレイス  
需要の拡大

少子高齢化に伴う  
施工作業者の不足

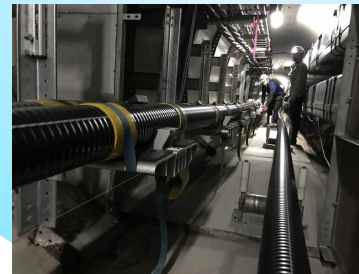
### 【海底ケーブル】

- 浮体式洋上風力ケーブルシステム開発
    - ・ダイナミックケーブルの浮体実証事業  
(NEDOグリーンイノベーション基金への参画)
    - ・ダイナミックケーブルシステム監視技術開発
    - ・大水深ダイナミックケーブルシステム開発
- ⇒30年以降の事業化に向けた開発推進

### 【地中ケーブル】

- 生産性向上を目指した材料開発
- 施工性に優れたケーブル開発

⇒施工効率化・競争優位性



### 【機器部品】

- 次世代接続部の開発
- 施工簡素化工法の開発



All to brighten the world

**FURUKAWA**  
ELECTRIC

## 3. HVDC事業

### 3. HVDC事業

## 3-1. 新工場投資について

最新鋭工場の2030年中の稼働開始に向け計画通り進行中

### 富津新工場の立上げ

所在地：千葉県富津市 設備稼働開始予定：2030年中

投資総額：約1,000億円（GXサプライチェーン構築支援事業補助金 307億円を活用）

- ・ 現行最高電圧である500kV級のHVDCケーブルを製造
- ・ 最新鋭の設備やDXを導入し世界水準の品質とアジアNo.1の生産性の実現を目指す
- ・ 26年度は工場建屋、設備など約160億円の設備投資を予定



### HVDCケーブル

送電損失が少なく、長距離・大容量送電に適している。遠隔地から大消費地へ送る、地域間連系に貢献する重要な技術。



## 3-2. 広域連系（国の方針状況・計画進捗）、海外展開

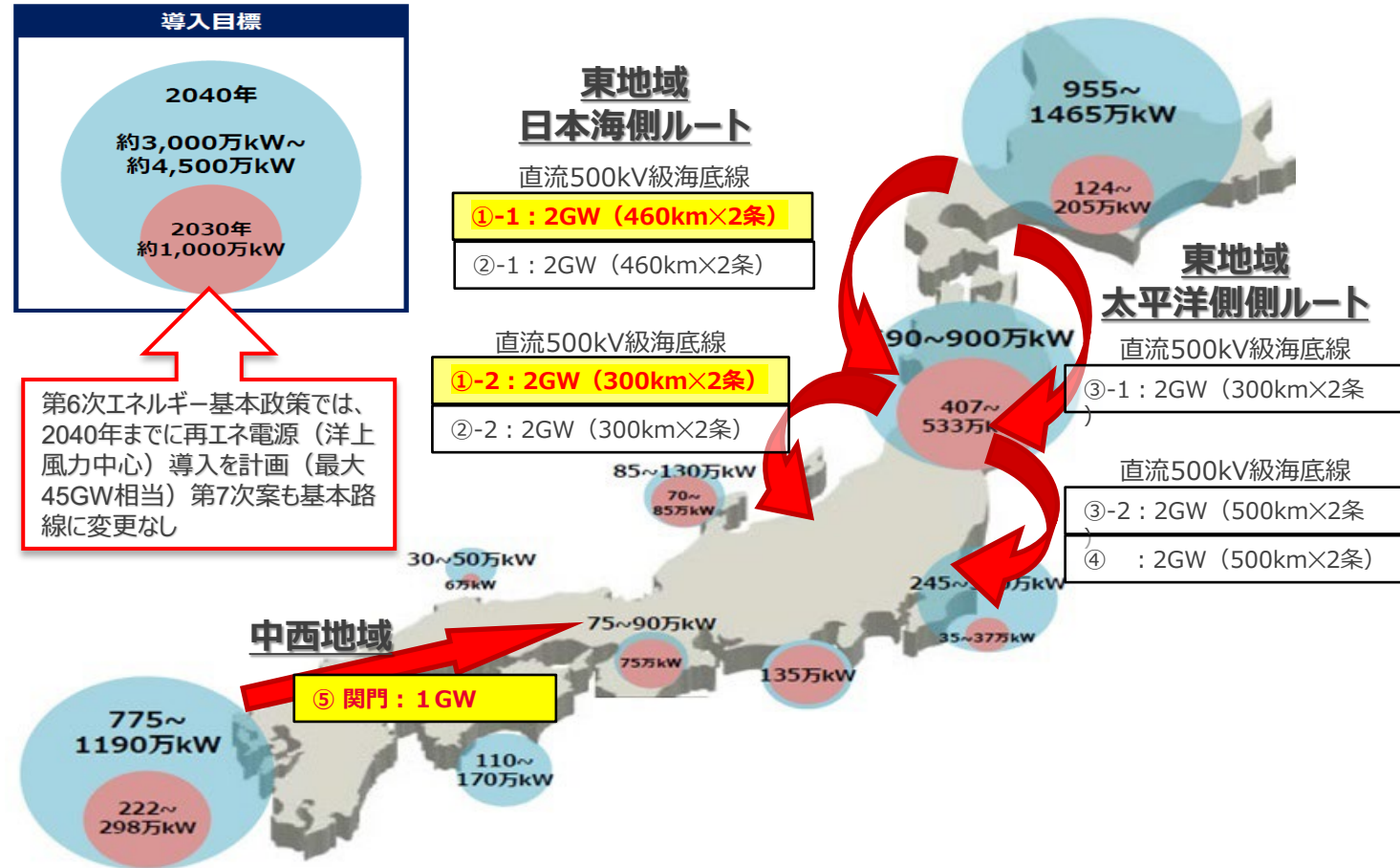
カーボンニュートラル実現に向け 国内ではHVDCケーブルを用いた広域連系線計画が進行中  
 HVDCケーブルシステムを通じて基幹インフラ構築への貢献を目指す

### 主な日本の広域連系線構想

- 東地域連系（北海道～東北～東京間）
  - ・送電容量 2GW ・海底線巨長 760km
  - ・工期 6～10年
  - ・電力広域的運営推進機関の公表によれば、実施案の評価は26年度末に終了予定であり、着工時期の見通しは従来通り
- 中西地域連系（関門）
  - ・送電容量 1GW ・海底線巨長 40-55km
  - ・工期 13年6ヵ月
  - ・2025年10月に整備計画策定
- 既設連系線（阿南紀北など）
  - ・更新計画策定の検討中

### 海外展開

東南アジア・中東・オセアニア市場のHVDC案件を継続的に調査し、参画を積極的に検討していく



出典資料：「洋上風力の産業競争力強化に向けた官民協議会」第2回（2020年12月15日）  
 \* 一部当社加筆

All to brighten the world

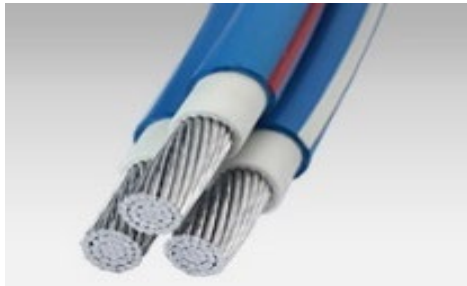
**FURUKAWA**  
ELECTRIC

## 4. 古河電工メタルケーブル (FEMC) / 古河電工パワーシステムズ (FEPS)

## 4-1. 再エネ・データセンタ向け製品拡販

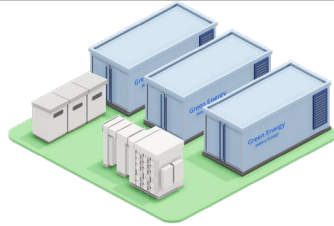
拡大する再エネ・データセンタ市場に向け、施工性向上と省人化に貢献する製品を提供

### 代表的な注力製品

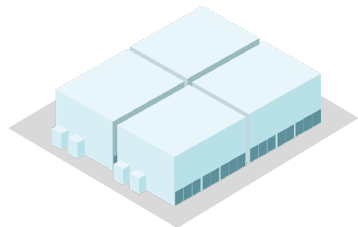


### 主な用途

系統用蓄電池



データセンタ



### 特徴と取り組み

- **らくらくアルミケーブル® <FEMC>**
  - ・「かるい/かんたん/やわらかい」を特徴とし、ケーブル布設作業の効率化/省力化を実現
  - ・工事現場等の人手不足の解決に貢献
  - ・太陽光発電所のほか、系統用蓄電池/データセンタをターゲットに拡販
- **EM-LMFC <FEMC>**
  - ・柔軟性と耐熱性に優れ、従来電線に比べサイズダウンを実現
  - ・狭所や密集した箇所への用途にて好評
  - ・新たに高電圧製品(1500V)を開発
  - ・蓄電池コンテナ内や、各種機器内の高圧配線向けに拡販
- **ケーブル付きプラグインコネクタ (PIC) <FEMC・FEPS>**
  - ・「誰でも安全/迅速/スキルレス」な施工を可能とし、省人化/省力化に貢献
  - ・データセンタを中心に、施工性向上を訴求して拡販

## 4-2. 高機能製品へのシフト

当社固有技術を活用した高機能製品開発を通じ、新製品・新市場開拓を実施  
差別化製品を通じた利益率アップを図る

### 高機能製品



### 固有技術

- ・メタル、フォトニクス  
ポリマーを核とした  
独自の設計と加工技術
- ・海中で使用できる  
耐水圧コネクタ



- ・国内メーカー唯一の  
自社試験線を用いた  
実証と観測データの  
解析
- ・金属加工技術  
(鋳造・機械加工技術)

### 特徴と取り組み

#### ●海洋ケーブル＜FEMC＞

- ・高い耐屈曲性を有するアンビリカルケーブル  
(海洋観測機器と母船をつなぐ多機能ケーブル) が  
評価され海底調査船に採用
- ・高度な技術要件に対応可能な製品として、  
海洋観測機器を中心に高付加価値市場での拡販を推進

#### ●送配電部品（ルーズスペーサ）＜FEPS＞

- ・独自開発の電線振動抑制機構  
雪害抑制性能と軽量化を両立し、鉄塔負荷低減に寄与
- ・データセンタ増加に伴う送電網強化が進む北米市場を  
中心に、海外におけるマーケティングと販路拡大を強化

All to brighten the world

**FURUKAWA**  
ELECTRIC

ご清聴ありがとうございました

# Thank You

古河電工グループ パーパス

「つづく」をつくり、  
世界を明るくする。



All to brighten the world

**FURUKAWA**  
ELECTRIC

## 補足資料 - Appendix

補足資料 事業概要

補足資料 製品紹介

補足資料 売上高・営業利益推移

## 環境分析

### 事業環境(主な収益機会)

- 国内超高圧地中線の堅調な需要が継続
- 再生可能エネルギー、データセンタ向け需要が拡大
- 当社固有技術により競争力のある次世代高機能製品の需要が伸長

### 強み

- 超高圧地中線の豊富な実績
- 国内洋上風力での先行実績
- 海底線の技術開発力
- メタル、ポリマー、フォトリソ技術および素材加工技術に基づく製品開発力

### 事業環境(主なリスク・脅威)

- 顧客側での大型プロジェクト計画の変更
- 原材料の調達難、価格高騰

### 課題

- 施工力増強（人員確保、施工効率化）
- HVDC新工場の立ち上げ
- 更なる生産効率向上のためのDX推進

## ビジョン2030に向けた事業戦略

### 基本方針

#### エネルギーを軸に存在感ある事業を確立する

古河電工グループの柱の一つとして、継続的に成長し、社会に貢献する事業を実現する

### 主な戦略

- 電力  
国内超高圧地中線の底堅い需要に基づく収益確保  
再エネ（海底線+地中線）一般海域案件の拡大
- HVDC  
最新鋭工場の2030年中の稼働開始
- FEMC・FEPS  
再エネ・データセンタ製品の拡販  
高機能製品へのシフト  
事業統合効果の最大化

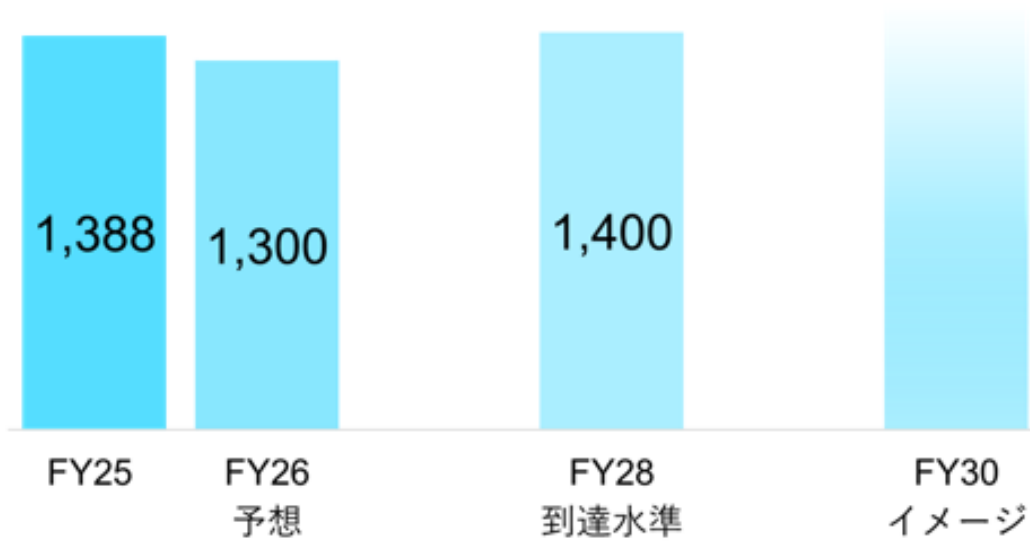
# Appendix 製品紹介

貢献分野	電力		FEMC	FEPS	
製品写真					
データセンタ	●		●	●	
カーボンニュートラル	●	●	●	●	
インフラ強化	●	● (送水管)	●	●	
モビリティ (自動運転・電動化)			●		
主な製品	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 超高圧/高圧地中線 (ケーブル・部品・布設工事)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 海底線 (ケーブル・部品・布設工事)</li> <li>● 送水管 (布設工事含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 産業用電線</li> <li>● 自動車用耐熱電線</li> <li>● 海底調査関連船舶用電線</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 送配電部品</li> <li>● 産業機材</li> <li>● その他機能製品等</li> </ul>	
主な用途	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電力基幹網整備</li> <li>● 大型プラント</li> <li>● 再エネ (陸上風力、太陽光、洋上風力自営線)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 洋上風力海底線</li> <li>● 離島向け送水管</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 太陽光発電システム</li> <li>● 工場設備/配電盤/制御盤等の配線</li> <li>● 自動車内の配線</li> <li>● 海底調査関連船舶</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 送配電線路用電設資材</li> <li>● ケーブル直線・分岐接続</li> <li>● 接続部の絶縁・保護</li> <li>● 産業機器・情報機器の放熱</li> </ul>	
主な顧客	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 電力 (送電) 会社</li> <li>● 再エネ発電SPC・EPC</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再エネ発電SPC・EPC</li> <li>● 地方自治体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 建設業者</li> <li>● 鉄道会社</li> <li>● 電機メーカー</li> <li>● 自動車部品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 国内外電力会社</li> <li>● 建設業者</li> <li>● 鉄道会社</li> </ul>	

# Appendix 売上高・営業利益推移

## 売上高

(億円)



## 営業利益

(億円)

